

日本語学術共通語彙の習得 — 第一言語による違いに着目して —

松下達彦（東京大学）・佐藤尚子（千葉大学）・笹尾洋介（京都大学）・
田島ますみ（中央学院大学）・橋本美香（川崎医科大学）

2018年日本語教育国際研究大会、2018年8月4日
Ca' Foscari University of Venice

The 2018 International Conference on Japanese Language Education

Venezia ICJLE 2018

発表の構成

- はじめに：本研究の背景と目的
- 先行研究
- 研究課題
- 調査方法
- 結果と考察
- まとめ
- 今後の課題

はじめに：本研究の背景と目的

- 「平和のための対話」（大会テーマ） ← 留学交流も重要
日本留学を目指す人材を増やすためには
日本語で学術テキストを読み書きできる人材の養成が重要
しかし、簡単ではない
- その原因の一つは・・・
学術テキストに特徴的な語彙の4分の3は漢語（松下2011）
特に非漢字圏の学習者にとって、学術テキストは日常のテキスト以上に
難しい
- どのような語が、誰にとって、どの程度難しいのか → 対策

先行研究

- 学術語彙の抽出をした研究

Matsushita (2012)、角(2010)、
バトラー後藤(2010)、松下(2011ab)

- 日本語 L 1 対象の学術語彙の習得研究

田島ほか (2017)

小4~中3・・・大学生まで段階的に発達

- 日本語L2対象の学術語彙の習得研究

佐藤ほか (2017)

日韓共同理工系学部留学生対象、一部は学術語彙の
習得が不十分 (L1は韓国語のみ、JCAWT Ver.1使用)

研究課題

- 学術テキストに特徴的な語彙（以下、「学術共通語彙」）は、日本語を第二言語（L2）とする学習者にどのように習得されるか

より具体的には

Q. **学術共通語彙**の**習得**は、以下の**第一言語（L1）グループ**によってどのように異なるか

- **C**：中国語L1
- **K/C**：中朝バイリンガル（中国の朝鮮族の学生）
（朝鮮語L1、中国語読み書き・会話ともH）
- **K**：韓国語L1
- **O**：その他＝非漢字圏L1

調査方法（1）形式と対象語

日本語学術共通語彙テスト (JCAWT)

- 日本語学術共通語彙テスト (JCAWT) Ver. 2.0 (田島ほか2017)
- 対象語彙：学術共通語彙 (松下2011)

一般的テキストと比較して学術テキストにおいてジャンルを問わず使用率の高い語彙

基本語彙と専門語彙の中間に位置する

学生・生徒にとっては基本語彙の次に重要

「占める」「優れる」「当初」「減少」「強化」「取り上げる」など、
範囲・関係・段階・量的変化・論述の展開といった、抽象性の高い論理操作に不可欠な語が多い

- 順序効果を避けるため、乱数を使って問題をランダムに配置したA, Bの2バージョンを作成

二つのバージョンの問題の質に差はない (田島ほか2017)
= 練習効果、疲労効果はない

日本語学術共通語彙テスト (JCAWT) Ver. 2.0

- 対象語**75語**

学術共通語彙リストの中の語を頻度順位に従い、
上位20,000語の中から250語に1語の割合で、可能
な限り等間隔で選定

ただし、旧日本語能力試験の4級および3級の語彙
(高頻度の基本語彙) を除外

1251位～20000位から250語に1語でサンプリング

日本語学術共通語彙テスト (JCAWT) Ver. 2.0

- 漢字の学年配当も現実の割合を反映するように統制
(≠Ver. 1)

学年配当の基準を満たす語で、基準頻度順位に最も近い語を対象語として選定

⇒ **L 1** の小中学生～成人など (田島ほか2017)
とも比較可能

- 問題形式

対象語を含む文や語句を示した上で、語義を問う3肢
選択問題

JCAWT Ver.2 対象語

1	学	11	集合	21	交付	31	周波	41	散布	51	粗-	61	巖然	71	勅令
2	本来	12	記号	22	少量	32	害する	42	永續	52	論述	62	るつぼ	72	耐用
3	分野	13	深める	23	立法	33	耕作	43	コマンド	53	ビジュアル	63	脱税	73	腐食
4	しばしば	14	おのあの	24	類型	34	賛同	44	境目	54	可否	64	勝訴	74	凸
5	思考	15	配分	25	ギャップ	35	能動	45	具現	55	編著	65	融和	75	円錐
6	作り出す	16	重点	26	関数	36	教示	46	基底	56	激増	66	拙稿		
7	用語	17	曲線	27	極度	37	コンテンツ	47	近接	57	躍進	67	兼任		
8	強力	18	前面	28	共生	38	絶え間	48	案件	58	割り振る	68	サンプリング		
9	主な	19	同等	29	助成	39	適格	49	座標	59	下巻	69	描画		
10	先進	20	要約	30	議事	40	計測	50	並列	60	廃	70	既-		

JCAWT 2.0 問題例

帰結：^{ひと}一つの帰結である。

1) ^い行ったり^き来たりする^{かんけい}関係

2) ^{さいご}最後に^{かんが}まとまった^{じょうたい}考えや状態

3) ^{はじめ}初めに^で出てきた^{もんだい}問題

調査方法（２）参加者

- 日、韓、中などの日本語 L2大学生等 229 名
- L1・・・23種類：中、韓・朝のほか、スウェーデン語、英語、ドイツ語、イタリア語、フランス語、フィン語、ロシア語、アラビア語、ベトナム語、モンゴル語など
- 女性74名、男性135名、未記入20名
- 平均年齢 20歳8か月、標準偏差 2歳1か月（年齢未記入13名除く）

L1グループ、国内／国外別参加者数

L1グループ	日本国内	日本国外	総計
中国語 C	11	41	52
韓国語 K	8	96	104
朝鮮語／中国語 K／C		16	16
その他(非漢字圏) O	37	20	57
総計	56	173	229

大学種別、国内／国外別参加者数

	日本国内	日本国外	計
A日本・国立大	14		14
B日本・国立大	15		15
C日本・国立大	14		14
D日本・私大	10		10
E日本・日本語学校	3		3
F中国国立大		57	57
G韓国私立大		96	96
Hスウェーデン公立大		20	20
計	56	173	229

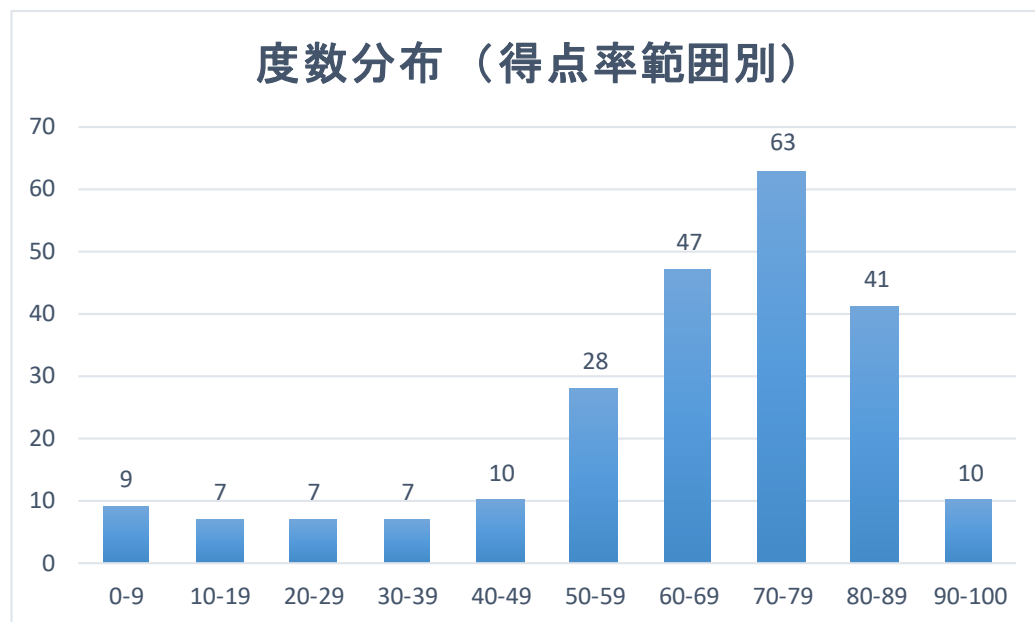
調査方法（3）実施方法

- 時期：2017年4月～11月
- 主に参加者の所属校で、A 4 版の紙に問題を印刷し、解答はマークシート方式で実施
- 制限時間30分
- 表紙で文字により、問題数、時間配分などのほか、「こうかもしれないと思う答えがあるときは答えてください。ぜんぜんわからないときは答えないでください。」と教示を与えた。

結果 (記述統計と 信頼度)

75点満点中 (100%中)

- 平均48.2 (64.3%)
- 標準偏差16.0 (21.3%)
- 最高71 (94.7%) 最低0 (0%)
- **クロンバック α = .95**
テストの信頼性 (内的一貫性) は高い



結果（DIF分析：L1グループ）

- ラッシュ分析 – DIF 分析 (Differential Item Functioning)
 - 使用ソフト：Winsteps 3.92.1
 - ラッシュ分析：客観的な測定具が必然的に従うべき数理モデル（ラッシュモデル）との適合度を統計的に分析
- L 1グループによる違い ⇒ DIF分析：受験者グループによる項目難度差の有無を調査する手法

L 1グループ、国内／国外別参加者数

L1グループ	日本 国内	日本 国外	総計
中国語 C	11	41	52
韓国語 K	8	96	104
朝鮮語／中国語 K/C		16	16
その他(非漢字圏) O	37	20	57
総計	56	173	229

相対的項目難度：

L1グループによる顕著な違い
(次ページへ)

CにとってOより相対的項目難度が高い項目 (項目難度差 1 以上)

項目ID	問題項目	語種	全体	C	K	K/C	O	C-O	K/C-O
68	サンプリング	外	1.11	1.90	1.31	2.67	-1.10	3.00	3.77
53	ビジュアル	外	-0.55	1.37	-2.96	-0.59	-1.24	2.61	0.65
37	コンテンツ	外	0.67	1.90	0.25	2.18	-0.57	2.47	2.75
25	ギャップ	外	-0.37	0.87	-1.21	1.16	-1.37	2.24	2.53
6	作り出す	和	-0.28	0.23	0.03	0.88	-1.95	2.18	2.83
69	描画	漢	0.01	0.95	-0.09	0.61	-1.10	2.05	1.71
36	教示	漢	0.96	0.69	1.75	1.79	-1.24	1.93	3.03
18	前面	漢	0.04	0.95	-0.27	0.88	-0.84	1.79	1.72
44	境目	和	1.09	1.71	1.05	2.67	-0.05	1.76	2.72
43	コマンド	外	-0.31	0.33	-0.72	2.67	-1.24	1.57	3.91
4	しばしば	和	1.64	2.51	1.71	0.61	0.95	1.56	-0.34
22	少量	漢	0.45	1.29	0.19	0.61	-0.18	1.47	0.79
30	議事	漢	0.01	0.52	0.14	-0.25	-0.57	1.09	0.32
47	近接	漢	-0.34	0.61	-1.62	1.46	-0.44	1.05	1.90

結果と考察

（CにとってOより相対的項目難度が高い項目）

- CにとってOより相対的に高難度
 - 「サンプリング」「ビジュアル」など上位4項目がすべて外来語
 - 漢字語も2語（「前面」「少量」）を除き、すべて中国語にない語
（「前面」「少量」はOにとって相対的難度が高くないことが影響か）
- ⇒C（**中国語L1学習者**）がアカデミックテキストを読むには
学術系の**外来語の学習／教育**がより効果的
- K/C（中国の朝鮮族大学生）は、外来語等にはOと似た傾向を示すが、一部に異なる語もある

0にとってCより相対的項目難度が高い項目 (項目難度差 1 以上：22項目中の上位)

項目ID	問題項目	語種	全体	C	K	K/C	O	C-O	K/C-O
48	案件	漢	-0.20	-2.88	0.09	-2.29	0.65	-3.53	-2.94
56	激増	漢	-1.16	-4.10	-1.10	-0.98	-0.70	-3.40	-0.28
66	拙稿	漢	1.24	-0.47	1.80	0.88	2.60	-3.07	-1.72
16	重点	漢	-1.68	-4.10	-1.99	-1.49	-1.24	-2.86	-0.25
23	立法	漢	-0.88	-2.16	-1.79	-0.59	0.50	-2.66	-1.09
67	兼任	漢	0.40	-1.17	0.55	0.61	1.45	-2.62	-0.84
75	円錐	漢	1.22	-0.09	1.66	0.61	2.31	-2.40	-1.70
10	先進	漢	-1.85	-2.88	-2.96	-3.56	-0.97	-1.91	-2.59
63	脱税	漢	-0.58	-2.16	-0.15	-0.98	-0.44	-1.72	-0.54
64	勝訴	漢	-0.64	-1.73	-0.80	-0.25	-0.05	-1.68	-0.20
52	論述	漢	-0.74	-1.73	-0.72	-1.49	-0.18	-1.55	-1.31
19	同等	漢	0.16	-1.17	0.69	-0.59	0.36	-1.53	-0.95
51	粗-	漢	0.61	-0.78	1.27	-0.98	0.65	-1.43	-1.63
49	座標	漢	-0.31	-0.47	-0.99	-0.98	0.95	-1.42	-1.93
13	深める	和	-0.09	-1.42	0.30	0.33	-0.05	-1.37	0.38
21	交付	漢	1.20	0.33	1.89	-0.98	1.64	-1.31	-2.62
32	害する	漢	-0.58	-1.73	-0.15	-2.29	-0.44	-1.29	-1.85
57	躍進	漢	0.09	-0.61	0.35	-0.98	0.65	-1.26	-1.63
17	曲線	漢	-0.61	-1.42	-0.80	0.33	-0.18	-1.24	0.51

結果と考察

(OにとってCより相対的項目難度が高い項目)

- OにとってCより相対的に高難度
 - 「案件」「激増」など、上位11項目のうち10語は中国語に存在するいわゆる同形漢語（「円」-[圆]のような対応字体は同形とする）
 - 「脱税」は中国語では「逃税」だが、意味の類推可能性が高い語

⇒ O（**非漢字圏学習者**）が学術テキストを読むには学術系の**漢語**や**漢語系接辞**の**学習／教育**がより効果的

K/C（中国の朝鮮族大学生）は、漢語にもOと似た傾向を示すが、異なる語も少なくない

結果と考察

(L1グループ別項目難度の相関係数 r)

	全体	C	K/C	K	O
全体	--	0.751	0.621	0.751	0.722
C	0.751	--	0.666	0.508	0.337
K/C	0.621	0.666	--	0.480	0.192
K	0.751	0.508	0.480	--	0.615
O	0.722	0.337	0.192	0.615	--

- KとCの相関 $r = .508$ に対し、KとOの相関 $r = .615$
⇒KはCよりOに近い = Kにとって、必ずしも漢語系学術語彙は易しくない⇒従来の「中韓=漢字圏」というグループ化より、「中」「韓/その他」という分類が有効である可能性
- K/C (中国の朝鮮族大学生) は
K ($r = .480$) よりC ($r = .666$) に近い
⇒中国語知識が漢語系学術語彙の理解に使える
⇒高度バイリンガルはL1だけでは括れない

まとめ

- JCAWT（日本語学術共通語彙テスト） Ver. 2 は、学術語彙知識を測るツールとして妥当

学術共通語彙の習得について

- Cにとって、外来語や中国語にない漢語などは、Oより相対的に高難度
- Oにとって、いわゆる同形漢語はCより相対的に高難度
- KはCよりOに近く、Kにとって漢語系学術語彙は易しいとは限らない
- 「中韓＝漢字圏」というグループ化より、「中」と「韓／その他」という分類が有効
- K/C（中国の朝鮮族大学生）はKよりCに近く、中国語知識が漢語系学術語彙の理解に使える。
- 高度バイリンガルを対象に含む研究ではL1だけでグルーピングしてはいけない

今後の課題

JCAWT（日本語学術共通語彙テスト）について

- テスト項目の細部の検証・改善
- 音声版の試験の作成 ⇒文字版との比較
⇒中国語知識の音声的日本語語彙知識への転移レベルの検証

学術語彙の習得

- L1とL2の学術語彙知識の発達の比較
L2のいわゆる中級前半／後半はL1で小／中／高の何年生レベルか
- 学術語彙知識の発達は各科目の学習とどの程度関わっているか

引用文献

- Matsushita, Tatsuhiko. (2012). In what order should learners learn Japanese vocabulary? A corpus-based approach. 博士学位 (PhD) 論文、Victoria University of Wellington
- 佐藤尚子・田島ますみ・松下達彦・笹尾洋介・橋本美香 (2017). 「使用頻度に基づく学術共通語彙テストの開発と実施 ―国立大学の学生と、国立大学へ入学する韓国人日本語学習者を対象にして―」第19回専門日本語教育学会研究討論会、横浜国立大学、2017年3月3日
- 角 知行 (2010). 「学術基本用語集作成の試み」『アカデミック・ジャパニーズ・ジャーナル』2, 11-21.
- 田島ますみ・佐藤尚子・松下達彦・笹尾洋介・橋本美香 (2017). 「日本語学術共通語彙知識の発達 (義務教育課程と高等教育課程での習得状況の比較)」日本リメディアル教育学会第13回全国大会、於 日本文理大学、2017年8月23日
- バトラー後藤裕子 (2010). 「小中学生のための日本語学習語リスト (試案)」『母語・継承語・バイリンガル教育研究』6, 42-58.
- 松下達彦 (2011a). 「日本語の学術共通語彙 (アカデミック・ワード) の抽出と妥当性の検証」『2011年度 日本語教育学会春季大会 予稿集』 244-249
- 松下達彦 (2011b). 「日本語学術共通語彙リスト」
<http://www17408ui.sakura.ne.jp/tatsum/list.html#jcaw> (2018年8月3日参照)